



どうする



防災

2025年11月号外
和合町自主防災隊

「2025 和合町防災訓練」

緊急避難場所

台風や大雨、地震などの災害時に避難して、一時的に身の安全を確保するための場所

避難所

家屋の倒壊などが起こり、自宅で生活できない人が、生活の場として何日もそこに留まる場所

「ファーストミッションボックス(FMB)」

大規模災害が起こった時、自主防災隊員が不在でも、避難者が協力して避難所の開設が行える手順書が入ったボックスです。

ボックスを開ける所から、グループの分け方、各グループのやるべきミッション、必要物品・機材の置き場所などが書かれた手順書が入っています。

これを使うことで、自分達で避難所の立ち上げを行い、できるだけ早く、泉小体育館の中に入ることができるようにする道具が「ファーストミッションボックス(FMB)」です。

避難所開設準備

- ①避難者が泉小学校グラウンドに避難してきます→避難所(体育館)にはすぐには入れません。
- ②避難所(体育館)の使用の安全性を確認されるのを待ちます。(応急危険度判定員が判定を行います)
- ③集まった避難者、避難場所に駆けつけることができた自主防災隊員が、自主的にファーストミッションボックス(FMB)を開け、避難所の開設を行います
- ④避難所の開設準備が出来た後、避難所受付を通過して避難所(体育館)に避難者が入ることができます。
- ⑤避難所に入った後は、とりあえずは地域別に体育館で待機することになります。

避難所の運営について

避難所が開設された後、避難所の運営を行うにあたっては、市役所が作った避難所運営マニュアル(浜松市の防災倉庫に入っています)に沿って、様々な仕事(各グループ別に様々な仕事があります)を行うこととなります。

避難所を立ち上げたグループリーダー、メンバー、自主防災隊員が中心になって運営の初動を行います。避難所運営は基本避難所で生活する人たちで行っていきます。仕事を移譲し、当事者が運営を行うように、各グループのリーダーを再度決めていくこととなります。

市役所の職員や、自主防災隊員はサポートは行いますが、直接運営を行うわけではありません。

筆耕:防災コーディネーター 松山 美佐